

「ババババッス。博士、バス太郎です。

おはようございバス」

「よしよし、起動成功じゃ!

バス太郎、これからおぬしに任務を与えるぞ」

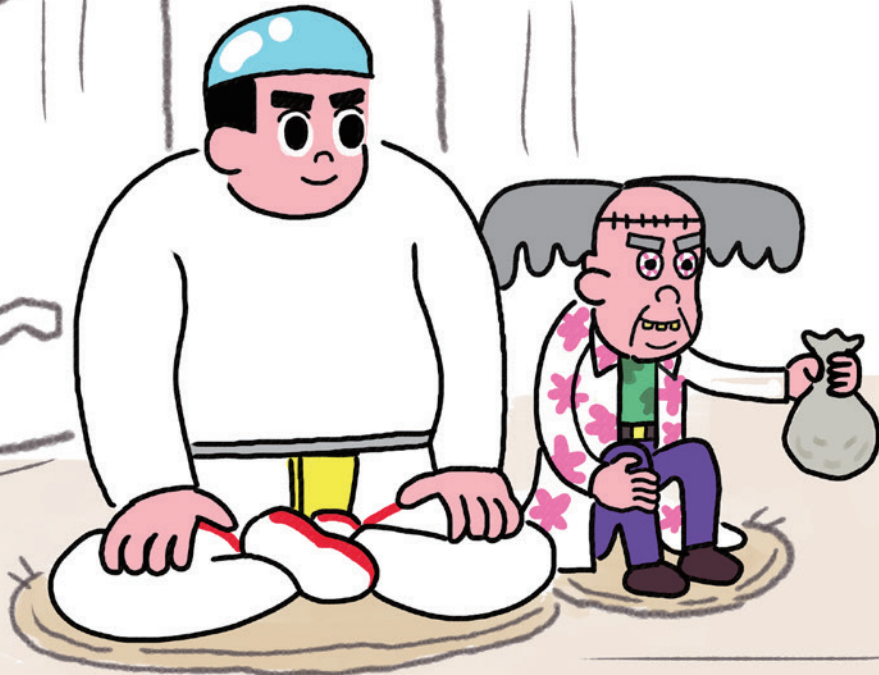
「ババババッス。

博士、バスのためなら、なんでも頑張りバス!

「いま、地域のバスや公共交通はピンチなんじゃ。

おぬしのチカラで、

この街のバスや公共交通を救うのじゃ!」



「博士、任せてください!

まずは“きび団子”を用意してもらえバスか?」

「なんとも頼もしいのお。ほれ、これでどうじゃ!

おのれのヒラメキに従って、旅に出るんじゃ」と、
博士はバス太郎に「きび団子」をプレゼントしました。

「博士、ありがとうございますバス!

さっそく、出かけてまいりバス!」

いよいよ、バス太郎の冒険が始まったのでした。

